

ジャパンナレッジを活用したレポート作成法

人物調査での利用法 —「渋沢栄一」を課題にした事例—

データベースは単に知りたいことを調べるばかりがその用途ではありません。うまく活用すれば、レポートや論文を書くための着想を得て、新たな認識の枠組みを導く“発想支援ツール”としても利用できます。ここでは大学で出された課題を例に、辞書・事典・雑誌・叢書などを一括検索できるデータベース「ジャパンナレッジ」を使ったレポート作成法を見ていきましょう。

ジャパンナレッジを使ったレポート作成法の概略

- ① 概要・通説
定義等を知る 知識の基礎を作る……「見出し検索」、関連項目、参考文献を活用
- ② 「全文検索」でさらなる
関係性をあぶり出す 他の関連情報との関係をつかむ……「全文検索」を活用
- ③ 関連性をまとめ、
関係マップを作る 関連情報をもとに関係マップを作る…情報の可視化
- ④ テーマを絞り、
アウトラインを作る 他の情報源を参照する… ①～③ の情報をさらに充実させる
- ⑤ 実際にレポートを
書いてみる 調べながら考え、考えながら調べる…必要に応じて再調査

鉄則：信頼できる「良い」情報から開始する

レポートを書く行為は、試験問題のように知識の記憶力が問われるものではなく、主体的に問題を発見し、問いかけ、テーマを設定して、自らの言葉で解決に向けた提案を行うことです。

ネット上で容易に情報が入手でき、生成 AI サービスに問えば、何らかの回答をくれる時代。一見、便利に思えますが、別の意味で私たちに新たな困難をもたらします。入手した情報の根拠・真贋を見極める眼力を持ち合わせているか、私たちが厳しく問われるようになるからです。

学術世界の「学びの旅路」を始めた皆さんは、デジタル情報の乱気流に呑み込まれないよう、着実に鑑識眼を磨き、情報活用の手さばきを覚えねばなりません。「学びの旅路」には鉄則があります。「信頼性の高い、良い情報源から調査に分け入る」「得られた情報群を起点に、対象テーマについて俯瞰的に頭の整理をする」ことです。「信頼性の高い情報源」のベースキャンプとして最適なツールが、「ジャパンナレッジ」(以下、JK)です。有償だからこそ得られる確かな情報、厳選された情報の宝庫、JK を活用したレポート作成の基本作業を体験しましょう。

通常、レポートを作成するにあたり、多くの人が経験する“とまどい”は、次のようなことです。

1. 何から始めたらいいのかわからない。
2. 調べたい物事や事柄のイメージをうまく言葉(キーワード)にできない。
3. 言葉(キーワード)を見つけ、検索で情報は得たものの、その内容・特性を評価できず、使い方がわからない。
4. 得た情報からテーマを俯瞰的に捉え、そこからトピックを絞り込む視点の設定が難しい。

上記の“とまどい”の解消に向けて、事例を使いながら JK の利用法を考えてみます。

事例課題の整理

現行一万円紙幣の肖像画の人物である渋沢栄一。この人物を調査して、何らかのテーマ設定を行い、レポートを書くという仮定のもと、実際に JK で検索をしてみましょう。

<課題>

渋沢栄一は、日本の近代化にどう貢献し、どのような領域で業績をあげたのか。功罪を含め、自らの視点からトピックを設定し、評価せよ。

課題は、通常は漠然とした問いの形になることが多いので、いかに独自の視点でテーマを絞り、トピックを切り出すか、その技能が課題での評価の対象となります。

①概要・通説、定義等を知る

最初に意識すべきは、人物に関する概要・通説を押さえることです。総体をつかんでいなければ、調査する過程で現れる個別の事項の位置づけや評価ができません。「既に概要くらいは知っている」との思いこみは禁物です。

さっそく検索を始めますが、その前に、留意事項が2点あります。

1つ目は、「見出し」で検索する意味と「全文」で検索する意味の違いです。「見出し検索」の場合、調査事項＝渋沢栄一という人物の解説記述を確認するのにに対し、「全文」検索の場合は、他の「見出し」項目の解説記述中に「渋沢栄一」が含まれる項目が検索できます。これにより、渋沢栄一が他のどの項目と関係し、つながっているかを俯瞰的に調査することが可能になります。

2つ目は、ヒットした情報の「情報源の特性」に目を凝らすことです。対象事項の概要を網羅的に解説記述する「百科」、事項の要点を簡潔に解説する「辞典」・「用語・情報」類など、JKの「検索コンテンツ」から検索対象を選ぶ際には、コンテンツ種別ごとの編集目的・機能特性を理解する必要があります。

では、検索コンテンツの選択範囲に「百科」「日本語」「用語・情報」「人名・文化・宗教」を指定し、基本検索の「見出し」を選び、キーワード“渋沢栄一”を入力して検索しましょう（図1参照）。

すると、JKが収録するデータベースで、10件の情報

が当たります。画面をスクロールすると、百科事典の「日本大百科全書」、国語辞典の「デジタル大辞泉」だけでなく、人物に特化した「日本人名大辞典」、「日本人物文献目録」等に解説があることがすぐにわかります。

このように一括検索ができるため、辞書・事典をひとつひとつめぐる労を省力化できる、JKの良さがわかります。複数の辞書・事典が存在する意味は、各々編集目的や機能が異なり、それらの特性を活かして解説記述の比較や対照を行うことが有効だからです。

①-a 解説記述を読む

例えば、「デジタル大辞泉」をクリックすると、100文字程度の簡潔な解説が確認できます。また、日本語の語義解説を目的語とする「国語辞典」がわざわざ人名を掲載する意味を考えると、それほどの著名人物なのだ判断する材料にもなります。解説記述のなかに「万国博覧会」、大蔵省とあり、知らない場合は、クリックして万国博覧会とは何かを詳しく知ったり—2025年大阪・関西万博は盛会でしたね—、また、今の財務省の前身が大蔵省か！と即座に関連知識の確認と展開調査ができて手間が省けたりするのも、JKの強みです。右欄の「関連サイト」では「渋沢栄一記念財団」が存在し、渋沢研究の拠点組織であることも付随情報として得られます。

次は、同じ「渋沢栄一」でも「日本大百科全書」の項目を見てみましょう。語義解説とは違い、事柄を多角的に解説した「事典」のため、より詳しい記述がなされています。株式会社制度を起こし、銀行や企業の設立に関与したなど、渋沢の多くの業績に驚くのではないのでしょうか。

辞書と事典では、編集意図が異なります。簡略に理解できればよい場合は「辞書」、詳しく概要を知り、学術的解説が欲しい場合は「事典」を。機能特性を理解し、自分の置かれた状況に応じて、判断や評価を加えながら使い分けてみてください。

また、同じ「事典」類であっても、各々独自の編集方針により、解説の重点箇所が異なります。もし、「日



図1. 検索コンテンツを選び、「渋沢栄一」の見出し検索を行う。

本大百科全書」だけでなく他の百科事典（JKの追加コンテンツ「世界大百科事典」等）データベースも契約しているなら、複数の記述を参照し、記述内容の比較・統合を加えて、頭の整理を行うことが大切です。

以上、「見出し検索」で得たここまでの情報だけでも、渋沢栄一について、自分は「基本を押さえた」と中間に吹聴したくなるはずです。

①-b 関連項目、参考文献の参照

関連項目についても勉強しておきましょう。「日本大百科全書」の<渋沢栄一>の項目では、右欄・右下にある「関連項目」が、参照を促す項目に導いてくれます（図2参照）。<井上馨>、<徳川慶喜>からは人間関係が、<第一国立銀行>からは金融面での実績が、<海上保険>、<紙パルプ工業>、<製糸業>からは渋沢栄一が関与した事業が、<王子製紙（株）>や<東京瓦斯（株）>などの企業名からは、起業に参画した組織がわかります。また、「参考文献」を確認すれば、過去に定評のある研究書についての情報も得られます。

「関連項目」のリンク先を確認することで、徐々に渋沢栄一に関して、あなた自身の「知識の星座」が形成されてくるはずですよ。

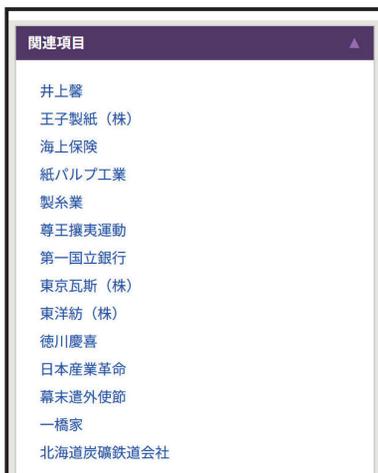


図2. 「日本大百科全書」<渋沢栄一>の関連項目を参照する。

②「全文検索」でさらに関係性をあぶり出す

もうひとつ意識してほしいことがあります。調査事項を「見出し検索」するだけで満足するのではなく、その事項が他の思いもよらない事項とどう繋がっているかを確認し、より広い関係性を発見することです。ここで「全文検索」の登場です。

渋沢栄一を渋沢栄一だけに限定して実績を調べるだけなら誰でもできます。しかし学術の「学びの旅」では、渋沢栄一を他のどのような領域と結びつけて論じられるのか、さらに掘り下げて調査しなければなりません。

検索コンテンツの選択範囲に「百科」「日本語」「用語・情報」「人名・文化・宗教」を指定し、「全文検索」で“渋沢栄一”を入力しましょう。すると、非常に多くの項目がヒットします。画面をスクロールしていくと、表

示される見出しに<渋沢栄一>ではない項目があることに気がつくでしょうか。

画面の最初の方は、<渋沢栄一>という見出しが並びます。ところが、<あかし-てるお【明石照男】>とか<足尾鉱山>とか、もっと下がって<うけとり-にん【受取人】>にもヒットしています。いったいこれは何なのでしょう。

実は「全文検索」では、辞書・事典類に見出し<渋沢栄一>がある場合はもちろん、他の見出しの解説本文で“渋沢栄一”の文字列が含まれば、その見出し項目も表示してくれるのです。

JKのコンテンツ情報は信頼性のある凝縮された記述情報です。「見出し検索」での「関連項目」以外に、渋沢がどういった人物や産業・事業に関係していたのか、さらに詳しい実績関係図を描き、俯瞰的に眺めると、切り口の方向性も見えてくるはずですよ。

「日本人名大辞典」にある<あかし-てるお【明石照男】>では、歴史上の有名な人物が渋沢栄一とどういう関係があったのか（この人物は彼の娘婿）、「世界大百科事典」や「日本大百科全書」にある<足尾鉱山>からは、渋沢栄一が関与した有名企業と引き起こした事件が、「日本国語大辞典」内の<うけとり-にん【受取人】>では、渋沢栄一が、専門用語の定義など経済・金融制度の確立に貢献があったのか、といった観点も芽生えます。これには、少し説明が必要です。「日本国語大辞典」には、その言葉が使われた記録上の最初の用例が示されます。渋沢の『立合略則』は最初期の経済用語・金融用語の用例として引用されているわけです。彼が使った専門用語が後代の経済活動に与えた影響を調査する、というのも可能かと思われれます。

そのほか、「た行」の結果まで見ると、<帝国劇場> <帝国ホテル>の創設に関わっていたことから、娯楽や観光の近代化に貢献していたという興味深い事項がどんどん明らかになります。

③関連性をまとめ、関係マップを作る

関連する情報を集めたら、ノートやメモに書き出して、マインドマップに代表される関係マップを作成し、自分なりの整理をしましょう。

例えば、「日本大百科全書」の<渋沢栄一>の「関連項目」にあった<第一国立銀行>から、銀行制度と信用秩序の基礎固めにどのように貢献したのか。それに関連させ、全文検索で当たる「日本国語大辞典」での<うけとり-にん【受取人】>の用例典拠『立合略則』を基本文献とし、金融制度や金融用語の初期のあり方を分析します。また、「日本大百科全書」の<渋沢栄一>の「関連項目」にあった<製糸業>や製紙工業の視点から、どのような製造業の起業方法をとったのか、<海上保険>から、保険の必要性をどう訴えたのか。上記の産業の発展に、全文検索で得られた「日本人名大辞典」などの<おおかわ-へいざぶろう【大川平三郎】>、<おの-まさのり【小野寺正敬】>ら関係人

物が、その後どう受け継いだのか。事業継承の産業史の視点も浮かびます。

全文検索で当たる「日本大百科全書」や「世界大百科事典」の〈フランス〉の項目では、渋沢が日仏会館の創設に尽力したことが確認できます。「デジタル大辞泉」の〈渋沢栄一〉では、若い頃にパリ万博に参加したと書かれていますが、日仏会館、パリ万博を含め、渋沢の国際交流・国際親善への功績はどう整理できるのか。また、全文検索での「日本大百科全書」や「世界大百科事典」の〈田園調布〉を見れば、放射状道路を敷設した東京・田園調布の計画を渋沢が行ったことも確認できます。彼と都市計画を絡めてレポートの対象にできないか。

さらに、全文検索の「日本大百科全書」や「日本近代文学大事典」の〈城山三郎〉〈津本陽〉により、二人の著名作家が渋沢栄一の伝記小説を書いていることが判明します。彼の事績が文学の世界でどのように描かれ、評価されているのか。それ以前に刊行された学術的な渋沢栄一の伝記との描かれ方の比較、評価の変遷もトピックになる可能性があります。「世界大百科事典」「日本国語大辞典」「日本大百科全書」の〈帝国ホテル〉からは、日本におけるホテル産業の登場にどう貢献したのか、外交と関係づけて渋沢を追うことも可能でしょう。

検索で得た情報を整理しつつ読み、ノートを取って可視化すれば、皆さんの「認識の網の目」がより深まります。初動調査や探究に向けて特定の対象に関する基礎的なアプローチに、JKはとても役立ちます。

④テーマを絞り、アウトラインを作る

整理した情報や知りえたキーワードをもとに、他の情報源を使って、さらにテーマを追跡します。渋沢栄一の国際交流への貢献に関して、レポートの構想を練ってみます。

NII 論文情報ナビゲータ「CiNii」や国立国会図書館「NDLサーチ」、同館デジタルコレクション、そして図書館の蔵書検索などを使って、情報をさらに充実させれば、テーマやトピックの切り口が見えてくるはずです。

渋沢栄一を JK で検索して見つけた情報では、彼は国際交流にも熱心に取り組んだようですので、例えば、国立国会図書館デジタルコレクションで“渋沢栄一”、“国際交流”などのキーワードを入れて検索してみます。

そうすると、『渋沢栄一：民間経済外交の創始者』（中公新書）が存在し、どうやら渋沢は国際交流においては、国よりも民間外交を主導したことが予測できます。

次に、NII の「CiNii」で研究論文を同様のキーワードで探すと、『国際交流に託した渋沢栄一の望み：「民」による平和と共存の模索』（ミネルヴァ書房）という学術図書の存在も発見できます。彼は国の外交よりも民間外交、国民外交を期待していたことは確実です。そこから、「彼が支援した民間外交の具体例はどのような

ものか」、「その真意はどこにあったのか」を問いとして、レポートの仮構成が可能ではないかと思われます。

【タイトル】渋沢栄一の民間外交による国際交流の現代的評価（仮）

1. 渋沢の民間外交による国際交流
2. 具体的事例と歴史的なレガシー
3. 民間外交を目指した思想的背景
4. 民間外交活動の現代的評価—光と影

各章ごとに、調査で得たキーワードをもとにさらに検索・調査したうえで、執筆をしていきます。

ここまでの作業は、例えば、夜間に星座を見るのと同じやり方だと言えます。星雲状に広がる宇宙に「切れ目」を入れ、実体はないのに、これはオリオン座、さそり座としています。

星雲状に広がる情報・知識の宇宙から、自分なりの視点と方法で「切れ目」を入れ、独自の星座にして取り出す。その最初のヒントを与えてくれるツールが、JK だと言えるでしょう。

⑤実際にレポートを書いてみる

いよいよ仮の章立てに従って、レポートを作成する作業になります。各章について、より詳しい調査を実施し、得られた情報・知識は丸呑みにせず、批判的に参照しながら、自分の考えを固めて言葉にしていきます。

調査の過程で、章立ての順序を入れ替え、組み直しが生じるのは通常のこと、めげる必要はありません。調べながら考え、考えながら調べる。そして頭を整理しながら記述する。レポート作成はこの作業の繰り返しです。

その際、とても大切なことがあります。それは、参考にしたり、引用したりした文献や情報の出所をきちんと書いて示すこと。すなわち参考文献を列挙する、引用文献の注をつける、ということです。

何を根拠に自分はこう考えたのか、その典拠となる情報を示すことは最低限のルールです。その理由は、あなたが何も参照せず、ひとりよがりの考えでレポートを書いたわけではないことを示すため、レポートを読んだ人があなたの考えた道筋を再検証するため、また先人の研究や報告に対して敬意を表するためです。

他人の研究や報告を参考にし、それを利用するのは、レポート作成における必須作業ですが、引用情報をきちんと記さないのはルール違反となります。その点をよく注意しましょう。

(2026年2月)

※検索結果や表示内容は、ご利用機関の契約内容によって異なります。